

痴漢はどう語られてきたか 『痴漢とはなにか』の著者と考える

11月7日に発行されたばかりの本『痴漢とはなにか 被害と冤罪をめぐる社会学』（エトセトラブックス刊）の著者である牧野雅子さんを講師に招きます。

この本は、戦後から現在に至る雑誌や新聞記事の分析の中から、「痴漢」がどう捉えられ、社会にどう共有されてきたかにアプローチ。なぜこの国では「痴漢」という性犯罪が、こんなにも日常化しているのか。そして、なぜ「加害」ではなく、「冤罪」ばかりが語られるのか…に迫っています。

講座では、著者としての思いや執筆の中で気づいたことなどを中心に、お話を伺います。その上で、「痴漢」という問題について参加者も一緒に考えていきたいと思えます。



- 日時 2019年11月26日(火)
18時30分～21時
- 場所 ドーンセンター・4F 中会議室2
(大阪府男女共同参画・青少年センター)
- 講演 牧野雅子さん
(龍谷大学犯罪学研究センター博士研究員。
博士(人間・環境学)。専門は、社会学、ジェンダー研究)
- 会費 1000円
*維持会員の方は無料です。

参加は
女性のみ

お問い合わせ

性暴力を許さない女の会

大阪市東淀川郵便局私書箱15号

TEL 06-6322-2313 (毎週火曜日 夜7～9時のみ)